

# 留学報告書：2023年6月

花田美月

2021年度奨学生の花田美月です。UC Berkeley 数学科の博士課程に所属しています。この報告書では2年春学期についてご報告いたします。

5月にQualifying Examがあったため、今学期は主にその勉強に専念しました。バークレーの数学科のQualは、研究分野に合わせてそれぞれがシラバスを作成し、それを基に3時間の口頭試験を行います。他の分野と違い研究内容を発表するというより、今後研究するために必要な基礎知識を固めることが目的です。2つあるメインのトピックのうち、一つは秋学期に履修した授業のノートを中心に勉強できたのですが、もう一つは正式に履修したことない範囲のものだったので、一から自分で勉強し直す必要があり大変でした。Qualの勉強をしている間は毎日同じように机で数学書と睨めっこする受験生のような日々が続き、本当に理解が深まっているのか分からずモヤモヤすることもありましたが、セミナーやトークに出るたびに理解できる量が増えたり、今までなんとなくしか知らなかった定義や定理を前よりしっかり理解できるようになったり、勉強し甲斐があったなと思いました。

自習以外では、同じ分野の先輩やポスドクにお願いし、模擬試験(実際に黒板の前に立ち、その場で質疑応答する練習)もやりました。実際の試験では教授の皆様が優しく、私が説明に詰まってしまった時もヒントをくれたり質問の仕方を変えてくれて、とてもやりやすかったです。Qual合格後は正式にPhD Candidateになり、授業中心の生活から研究中心になります。指導教官と話し合い、これから取り組む研究内容、そのために必要な知識をつけるために今やらないといけないことを決め、今年の夏はそれに取り組む予定です。

学校外のことでいうと、3月末にはGender Equity in the Mathematical Study (GEMS) in Combinatoricsというワークショップに一週間参加しました。数学やアカデミア内におけるジェンダーマイノリティだからこその悩みや葛藤を共有したり、全ての人が過ごしやすいアカデミックなコミュニティを目指すための改善点について話し合ったりしました。シスジェンダーの男性以外(女性やトランスジェンダー男性など)を中心に参加していたため、同じ分野で活躍する女性の数学者と話すいい機会になりました。

Qualの勉強期間中は同期や先輩方、ポスドクにたくさん相談したり愚痴を吐いたりして乗り切りました。おかげでストレスを溜めすぎず、適度に息抜きをしつつ勉強することができました。また、Qual後は同期の友達がケーキを作ってくれてお祝いをしたり、大学時代の友達に会いにポストンまで遊びに行ったり、一時帰国で1ヶ月間実家へ帰ったり、楽しくのんびり過ごしていました。今はバークレーに戻り、徐々に数学漬けの日々に戻ろうとしています。授業や自習などのインプット中心だったのが研究センターに切り替わることに對して不安ですが、ワクワクしています。

最後になりましたが、さまざまな形でご支援をしてくださっている船井情報科学振興財団の皆様は心より感謝申し上げます。

